

2009 年度受託研究概要報告

チタン製品汎用化のためのデザイン研究 ～金魚鉢とリコーダーの提案～

研究メンバー

大田尚作	デザイン学部プロダクトデザイン学科教授
藤本修三	先端芸術学部造形表現学科教授
金鎮其	デザイン学部プロダクトデザイン学科実習助手

委託者

株式会社 EMC

研究概要

軍需産業素材として開発されたチタン素材は、抗菌・耐蝕・軽量・発色可能などの特徴を備えていることから、近年、民生用として私たちの生活用品の中に広く浸透してきた。本研究では、チタン薄板プレス加工による「金魚鉢」及び、チタン丸パイプ加工による「リコーダー」の提案を行った。

研究成果

<金魚鉢>

元来、金魚鉢は陶器製や木製で作られており、器上面より鑑賞していた。現在の主流であるガラスや透明樹脂製の器はもちろん、金魚を全方位から鑑賞できることから、人気も高い商品であるが、あえてチタン製器の提案により器そのものと、金魚の色と器の対比を愛でることをコンセプトに提案した。

・特徴

1. 陽極酸化法により発色させることで金魚の色とのコントラストを楽しむ。
2. 酸化チタンとの併用により、水中の酸素補給をサポートすることが可能である。
3. 上面からのみの鑑賞で、金魚本来の美しさを楽しむ。
4. 家庭用をはじめ、ホテルや病院などの公共空間での楽しみ方を提案。

<リコーダー>

チタン素材は生体への適合性が高いだけでなく、楽器としての音色の良さも知られている。既製品であるチタンの丸パイプとエポナイト素材の組み合わせによる小型のリコーダーを提案した。

・特徴

1. 陽極酸化法により発色させることで、同一形状でありながら各々異なった発色を楽しむことが出来る。
2. 軽量小型であるからポケットにも入り、携帯可能。

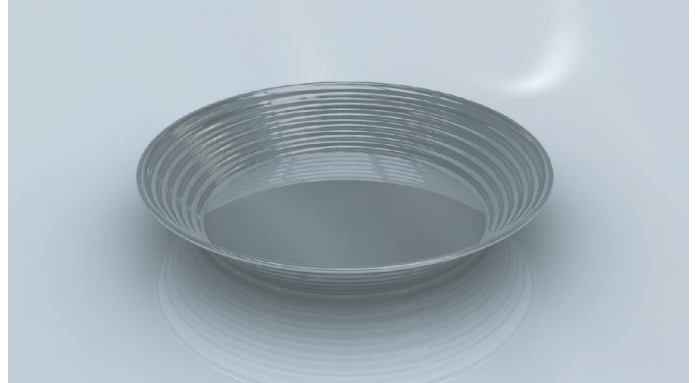


写真1 金魚鉢



写真2 金魚鉢

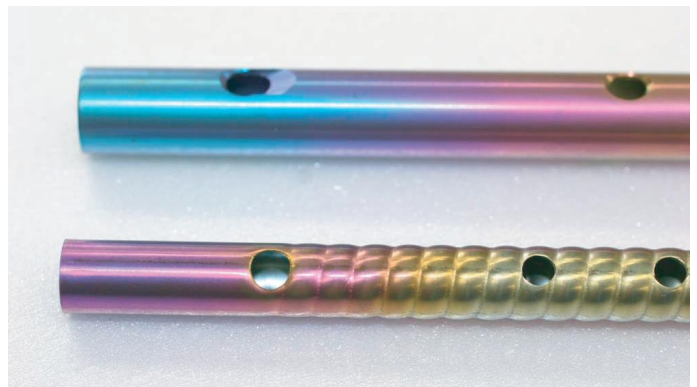


写真3 リコーダー



写真4 リコーダー